

地域交流複合施設「かもいけみらいの森」を 活用した地域力の醸成に関する研究

研究計画書

○実施機関

実施機関名： 公益社団法人 教育・ヘルスケア振興節英会

研究責任者： 理事 中重 敬子（かもいけみらいの森施設長）

2024（令和6）年2月29日 現在

1 研究計画

研究課題名	地域交流複合施設「かもいけみらいの森」を活用した地域力の醸成に関する研究
研究の主旨	<p>85歳以上の超高齢者の数が2035年頃には1,000万人を超えると予測される超高齢化と人口減少が進行している日本において、だれもが役割を持って生きる地域共生社会の実現は急務である。その実現には、人と人、人と社会がつながり支え合う取組が生まれやすいような環境を整える新たなアプローチが必要である。同時に、地域に「福祉・介護を支える資源があること」も重要であることから、高齢者ケアの拠点として地域密着型サービスの導入が推進されている。また、「地域包括ケアシステム」の構築は、その対象者を高齢者のみならず世代を超え、障害や病気の有無にかかわらず幅広く含むように深化してきており、貧困層への支援や地域子育て支援の拠点づくりも課題となっている。</p> <p>地域住民が抱える課題が複雑化・複合化している現代においては、これらの課題を包括的・重層的に解決できる、一体化した環境として、地域に住む本人・世帯が、他者や地域、社会と関わり自分に合った役割を見出すための多様な接点を作り出すことが必要である。</p> <p>しかし、地域交流拠点と地域ケアサービス拠点を一体化した施設は未だ少なく、その拠点を活用した地域力の醸成に関する研究は皆無である。</p> <p>そこで本研究では、令和6年7月に開設する地域交流複合施設「かもいけみらいの森」を拠点に施設の導入前後の近隣住民の意識調査を通して、地域力の醸成がみられるかを検証する。本研究による一定の成果が得られれば、地域交流複合施設「かもいけみらいの森」を中心とした地域共生社会のモデル的な取り組みとなると考えられる。</p> <p>【用語の定義】</p> <p>地域交流複合施設：世代を超えて住民同士が交流し、よりどころとなる場としての役割を担う「多世代交流型の居場所」と、地域において福祉・介護を支える役割を担う地域密着型サービス、子育て支援事業が一体化した複合施設。</p> <p>地域力：地域に愛着を持ち、地域の人々とつながりながら、個人・団体・組織がそれぞれの立場で積極的に地域の課題解決に取り組む力。</p>
目的	「かもいけみらいの森」（以下、当該施設）が設置される中郡コミュニティ地域に居住する住民の「地域住民との信頼、仲間づくり、近所付き合い」に関する意識と当該施設利用状況を経年的に調査し、因果関係を明らかにすることである。
研究デザイン	縦断的研究（集団傾向研究） 当該施設が設置される地域（中郡コミュニティ地域）に居住する住民に対し質問紙表を用いて調査を実施し、結果の分析を経年的に行うことで、施設設置前と施設設置後3年目の住民の意識の変化をみる。
対象	「かもいけみらいの森」中心とした、中郡校区コミュニティ地域に居住する約11,000世帯の内の代表者（世帯主とは限らず、アンケート協力者）

方法	<p>1. データ収集方法 「かもいけみらいの森」を中心とした中郡コミュニティ地域のアンケート対象者に調査票を配布し、同封した返信用封筒で本法人事務所に返送していただく。</p> <p>2. データ収集期間 1 回目（プレ調査）：令和 4 年 12 月下旬から令和 5 年 1 月末 2 回目：令和 6 年 6 月～7 月 3 回目（施設開設後 1 年）：令和 7 年 9 月～10 月 4 回目（施設開設後 3 年）：令和 9 年 9 月～10 月</p> <p>3. アンケート調査票 先行研究によると「地域力」を支えるための根源的な資本はソーシャルキャピタル（以下、SC）であり、SC と地域コミュニティの関係から「地域力」は評価できることが明らかになっている。本研究においては、個人属性（性別、年齢、家族構成、居住年数、活動能力、主観的健康観、施設利用状況）と SC 尺度を参考にした質問項目を用いてアンケート調査票を作成する。別紙【参考資料】参照のこと。</p> <p>4. 分析方法 調査対象者の属性及び当該施設の利用状況と質問項目との因果関係を明らかにする。 分析には統計解析ソフト SPSS Statistics 24 を使用する。</p>
目標症例数	3,600（回収率 30%）
研究期間	倫理審査委員会承認後～令和 9 年 12 月
被験者同意	<p>アンケート調査に先立ち、中郡地区コミュニティ協議会の役員並びに町内会長に対して本研究の趣旨等を口頭並びに文書を用いて説明し、同意を得る。（1 回目のプレテスト時に同意を得ている）</p> <p>調査対象者には、本研究への参加は任意であり回答拒否による不利益はないこと、調査結果は研究の目的以外では使用しないこと、個人が特定されないよう無記名とし、調査票の返送をもって同意とする旨、文書で説明を行う。</p>
利益相反	本研究に対する企業等からの資金や利便の提供は無いため、本研究において開示すべき利益相反はない。
研究組織	<p>実施機関：公益社団法人教育・ヘルスケア振興節英会 研究責任者 中重敬子 研究分担者 東福須和子、原田ケイ子 共同研究者 鹿児島国際大学 看護学部 准教授 稲留直子 学習塾 薩摩スチューデント 23 アカデミー 上野 晋太郎</p>
申請者連絡先	<p>公益社団法人教育・ヘルスケア振興節英会 理事 中重 敬子 住所：〒890-0063 鹿児島県鹿児島市鴨池 1 丁目 64-6 電話：099-254-5568 メールアドレス：kamoike@setsueikai.com</p>